

A large circular collage of photos showing children of various ages participating in a traditional Japanese mochi-making activity. They are using long wooden mallets to pound rice in large wooden mortars. The children are smiling and appear to be having fun. The collage is set against a red background with a white border.

平成30年

Two decorative floral motifs, one on the left and one on the right, featuring red and white flowers with green leaves. They are positioned above the main title.

謹賀新年

矢板市制施行 60 周年という記念すべき
平成 30 年の幕が開けました。
皆様にとって幸多き年となりますよう
ご祈念申し上げます。

矢板市長 齋藤 淳一郎

「愛郷無限」

「愛郷無限」とは、梶山静六元衆議院議員が政治活動の際にスローガンとして掲げていたことで知られています。これは政治を行う者にとって原点ともいえる言葉であり、私の座右の銘でもあります。

選挙により市の代表として選ばれ、行政を動かす上で、何を最大の目的にするか。

政治信条として、生まれ育った愛する郷土をより良いものにするため、身を粉にして捧げる。無限の奉仕の気持ちで務めさせていただいております。



謹賀
新年

矢板市議会議長 和田 安司

「無信不立」

「無信不立」とは、孔子が「人民の信頼がなければ安定しない（民無信不立）」と政治で最も大切なことは信頼であると弟子に説いたことから生まれた言葉です。

市民の信頼の上に成り立っている議会は「開かれた議会」「透明性のある議会」でなければならないと考えています。

今後もこの言葉を信念として議会改革を進めて参ります。

輝かしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

矢板市政をお預かりすることになってから2回目の新年を迎えることができました。

一 昨年を振り返って



昨年は、市内で「ツール・ド・とちぎ」「Jプロツアー」「八方ヶ原ヒルクライムレース」と全国的な自転車レースが相次いで開催されたほか、矢板中央高校の全国高校サッカー選手権大会出場や、(仮称)とちぎフットボールセンターの整備方針決定など、本市が掲げる「スポーツツーリズム」の前進を大いに感じさせる年になりました。

一 新年の抱負

本年も「子どもや孫が帰ってくるまちづくり」実現のため、各種施策を具体的に展開して参ります。

行政区単位で行っている「未来づくり懇談会」では、これまで市内65行政区中53行政区において開催しており、そこでお聴かせいただいたご要望やご意見について、市政に最大限反映していきたいと考えております。

「矢板で安定した仕事を創る」

矢板南産業団地への企業誘致については、分譲価格引き下げの効果もあり、大きな手応えを感じております。昨年度2社、本年度も既に1社の進出が決まっております、今後も、

トップセールスに力を入れていくことで、1社でも多くの企業を市内に呼び込んでいきたいと考えております。

「矢板に新しい人の流れを創る」

(仮称)矢板北スマートICの整備では、3月までに各種調査業務を終了し、4月から用地交渉を始めることで、2021年3月末の供用開始を目指したいと考えております。

(仮称)とちぎフットボールセンターの整備は、「NPO法人たかはら那須スポーツクラブ」に対して、施設整備と運営を委ねる「民設民営」で行うことになりました。最短で来年4月のオープンが可能となりますので、たかはら那須スポーツクラブの取り組みをしっかりと応援していきたいと考えております。

「矢板で結婚、出産、子育ての希望を叶える」

マイホーム取得を支援する本市独自の「暮らしのびのび定住促進補助金」制度では、中心市街地で家を取得する方に対し、追加支援を講じるなど更なる拡充を検討中です。また、住宅地として造成できる市有地の売却にもより一層力を入れていきます。

一 むすびに

本年は、市制施行60周年、還暦を迎える記念すべき年です。決意を新たに市政発展に全力投球して参りますので、市民の皆様により一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

旧年中は、矢板市議会の活動に対しまして、皆様の温かいご理解と力強いご支援により、円滑な議会運営ができましたことに心より感謝し、厚くお礼申し上げます。

一 昨年を振り返って

昨年は、これまでの「開かれた議会」実現のための議会改革を継続しながらも、4月からは全国的にも先進的な取り組みである「政務活動費の事後交付制度(後払い方式)」を導入しました。また、10月に開催した「議会報告会・意見交換会」においては、より皆様の意見を取り入れられるよう、小グループに分かれて討議や意見交換を行うなど開催内容を改善しました。



さらには、新たな取り組みであるインターネットでの議場録画放送では、市内事業者にご協力いただき、9月定例会での試行を経て12月定例会からは本格実施の運びとなりました。

一 新年を迎えるにあたり

地方創生、地方分権が加速し、地方自治体には独自性が求められる時代になってきております。本市が独自の道を進むには、市民の意思が反映された上でその方向性が決定されなければなりません。

市民代表の合議体・市の意思決定機関としての市議会が、そこで果たすべき役割は非常に重要であり、重いものと受け止めております。

そのため、市議会としましては、広く市民の意見を聴き、参政意欲の向上にもつながる「市民参加」の機会の充実に努め、現施策のブラッシュアップとともに、より効果的な施策を検討して参ります。

また、いただいたご意見を実現できる体制を整えるべく「議会の機能強化」にもあわせて取り組んで参ります。

議会全体で市政運営に対する理解を深め、熟議の過程において民意を反映させ意思決定をすることで、より市民満足度の高い市政運営が実現されるものと考えております。

今後は、皆様からの信頼を確たるものにするべく「開かれた議会」実現の取り組みを継続していくとともに、「市民参加」や「議会の機能強化」の充実に鋭意取り組んでまいります。

一 むすびに

皆様のご意見、お力添えをいただきながら、議会運営に努めて参りますので、今後とも、市議会に対しまして、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆様にとりまして、本年が幸せで実り多い、大いなる飛躍の年となりますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

語る、新成人



「矢板時間」パーソナリティー
高賀茂 沙緒里さん

司会に「矢板時間」パーソナリティーの高賀茂さんを迎え、新成人が市長・教育長と対談した様子をお伝えします。将来の夢、ふるさと矢板への思いを語ってくれたのは、成人式で企画運営など中心的な役割を担う、実行委員の皆さんです。

「やいた」の好きなところ・魅力はなに？

高瀬：小さいころは都会に住んでみたいという思いもありましたが、矢板は空気が澄んでいて、食べ物もおいしいし、たくさんの魅力があるので、このまま矢板に住んで仕事を続けようと思っています。

細川：今、東京に住んでいますが、夜でも明るすぎて星がよく見えません。矢板に帰ってきた時に夜空を見上げると星がたくさん見えるので、落ち着きます。矢板の自然が大好きです。

室井：生まれた時から矢板に住んでいます。都会に憧れはなかったですね。矢板には自然あり住宅地ありで時間がゆったりと流れていると感じます。矢板がすごく好きなので、これからも住み続けたいです。

豊田：20年間ずっと矢板に住んでいるので、矢板に帰ってきて矢板の良さを再認識するという機会はありませ

が、自然が豊かだったり、住宅地も増えてきたりと、とても住みやすいまちだと感じています。過ごしやすい矢板の雰囲気が好きなので、離れようと思ったことはありません。

関谷：はじめは一人暮らしに憧れて、都会で生活したかったのですが、実際に実家で生活していて特に不満もないので、住んでよかったと思っています。

柳：子どものころから都会に憧れていたのですが、早く矢板を出たいと思っていました。実際に東京に進学して、帰郷した時、矢板のお米のおいしさ、地域の温かさ、人の良さを再確認することができました。離れてみて改めて、やっぱり矢板っていいところだなと感じます。

市長：私も大学時代に東京に住んでいましたが、離れて改めて感じる矢板の良さがあると思います。感じた思いを将来、矢板のまちづくりにぜひ活かしてほしいです。



新成人に聞く！ 「やいた」といえば？

「やいた」がもっと魅力的になるためには？

細川：地元の矢板で今何が行われているのか気になると矢板市のツイッターで確認しています。矢板市のツイッターは、うまくリツイートや拡散がされず、人目になかなか触れていないと感じます。ともなりくんがツイッターに登場するので、たまに和歌を詠んでみてはどうですか？

室井：子どもからお年寄りまで市民みんなが利用できるようなスポーツ施設もあるとうれしいですね。

市長：矢板駅東口に（仮称）とちぎフットボールセンターを整備する計画を進めています。グラウンドだけでなく屋内施設の整備にも力を入れていきたいと考えています。

豊田：いろいろなイベントが開かれるようになり多くの方が矢板を訪れてくれていると思いますが、定住までには至っていないと思います。イベントに参加することで矢板のいいところを知ってもらい、矢板に住んでもらえるようなまちになってほしいです。自転車やサッカーなどの大会やスポーツイベントでは、今以上に矢板に人を呼び込めるような取り組みも大切かなと思います。

将来「やいた」に戻ってくる決め手は、子育て環境？仕事？

関谷：実家の和菓子屋を継いで和菓子職人になるか、別の仕事に就くか迷っています。どちらにしても将来的には矢板で働きたいです。

柳：東京で就職したいと思っています。親や親戚が多くいる矢板は、辛くなった時に戻ってこられる「安心できる場所」かなって思っています。自分のやりたいことができる可能性が東京にはあると考えています。

細川：私も東京で就職しようと考えています。
市長：何かの機会に矢板を訪れてくれる人たちを増やすために、東京で就職を希望する柳さんや細川さんにもぜひ協力してもらいたいと思います。

矢板で定住しようとするとき、どんなことが気になりますか？子育て環境と仕事だったら、どっちだろう？

高賀茂：「教育など子育て環境」と答えた方が4人、「魅力ある仕事」と答えた方が2人いましたね。

関谷：カラオケやボウリング場のような高校生が集まって遊べる商業施設がもっとあると、若い人たちが遊びに来れるので良いと思います。

市長：昨年まちづくり講座で、市内高校に通う11人の生徒さんに「高校生の居場所づくり」をテーマに研究してもらいました。今後、特に矢板駅周辺に高校生が集まるような、魅力あるまちづくりを進めたいと考えています。矢板のまちづくりに対する若い人たちの発想や思いをどんな形でも良いので、ぶつけてほしいと思っています。市外に住んでいても矢板に思いを寄せて、機会があるときは何らかの関わりをぜひ持っていただきたいです。

教育長：実行委員の方のような若い人たちが、矢板を好きだと言って住んでくれていること、また東京に進学している方も、矢板のことをこんなにも思ってくれていることがわかりとてもうれしいですね。さまざまな機会を通して友だちなどに、矢板の魅力を伝えていってもらいたいと思います。

市長：東京のように多様な職場を用意することは、矢板市の人口・経済規模では正直難しいと思いますが、若い人たちが魅力を感じる企業の誘致などにも力を入れています。市内にも知る人ぞ知る特色ある企業が多くありますので、そのPRにも積極的に取り組んでいきたいですね。また、子育て環境の整備は教育・医療福祉・比較的安価な住宅地の供給など多岐にわたりますが、総合的に取り組んできたいと思っています。特に新成人の皆さんのような若い人たちが1人でも多く矢板に戻ってきてくれて、矢板で仕事に就いて、さらには矢板で子育てをしてもらえるような魅力あるまちになれるようこれからも頑張っていきたいと思っています。

高賀茂：若い人たちの意見を積極的に取り入れることで、さらに魅力あるまちになることを期待したいと思います。皆さま、本日はお集まりいただきありがとうございました。

